

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	太陽の子清水が丘三丁目保育園
施設所在地	府中市清水が丘3-23-13
法人名	HITOWAキッズライフ株式会社

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

・自然物に関わる事が好きな子どもたちは、戸外先での自然との関りを、保育室でも体験するため虫や植物をもってかえって、世話をしている。毎年の夏野菜栽培や梅仕事にも興味があり積極的に関わる姿が見られる。今回はすくわくを利用し、保育園でも体験できるように、自然をテーマにし、園内でも自然の体験ができる環境を作って行きたい。

2. 活動スケジュール

- 5月 ・幼児にて、自然について子ども会議を実施
今後の計画を実施する。
・畑作りをする。
- 6月 うめ仕事 (7月の夏祭りにて試飲コーナーを作り、保護者にも試飲していただく。)
夏野菜や植物を育てる。水をあげたり、植物の生長を実際に長さを図って観察をする。
- 7月 ICT (マイクロスコープ、PC) を使って、取ってきた自然や、収穫した野菜、花、虫等をより観察できる環境を作る。
- 8月 保育園の敷地内で自然を感じるブースを作る。
子ども、保護者に園庭のシンボルツリー、園庭のガーデンに対するアンケートを実施する。
- 10月 占部商会より保育室内に置く、観葉植物を設置する。
保育園で飼育しているクワガタ、メダカの飼育方法を知り、飼育で必要な物を購入する。
- 11月 園庭工事開始
ランドスケープ工事を実施。園にシンボルツリーとバタフライガーデンを設置。
- 12月～ 更に自然に対して自発的に学べるスペースを確保するため3, 4, 5歳児室に作る
研究室、図書館をイメージして作成する
探究活動は現在も継続中

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

・畑作り (平和おいしい野菜を育てる培養土25リットル、鉢プランター、草取り一番、高儀(Takagi)PC柄スコップ85×273×55mm、強力士起こしショベル、楽々印超軽量開墾鋤、子供用軍手 すべり止め付うさぎさん、作業長靴レインブーツワークブーツ、菜園用黒マルチ、剪定ハサミ、土のリサイクル材、)

・室内絵本コーナーの充実 (げつようびはなにたべる、あめふりうさぎ、おばけのアイスクリームやさん、でんでんでんしゃ、いろんなおやさいどこになる?、おうちで大収穫!世界一カンタンな野菜のつくり方、小学館の図鑑 NEO野菜と果物、おいしいアイスクリーム:幼児向け絵本 オススメ 1歳、2歳、3歳)

・夏野菜の栽培 (野菜苗 (トマト)、野菜苗 (きゅうり)、東北種子 (人参)、東北種子 (枝豆) 東北種子 (トウモロコシ) 東北種子 (はつか大根) 東北種子 (千日紅、ジスター) プランター650メネダール、ネット入り鉢底に入れる石、支柱フレームセット丸型380用、伸縮用支柱のびっ子 Mサイズ5本入、子ども会議や保護者掲示に使用 (ホワイトボードMXワイド、ホワイトボードMBR)

梅仕事

パールエース印 三温糖1kg、中日本冰糖 白マークロックA 1kg、日新製糖 カップ印粉末黒砂糖 300g、生はちみつ専門店 MYHONEY(マイハニー)アカシアハニーチューブボトル 500g×2本、東洋佐々木ガラス保存容器 果実酒びん4リットル 5号 4000ml、ミツカン 純リンゴ酢500ml×2個、青梅

ICTの利用

dell ノートパソコン (PC16250)、サンワサプライデジタル顕微鏡 LPE-08BK
スタッフが豊かに活動できるための専門書を購入 (豊かな直接体験をベースにICTで広がる保育)

保育室・園内に観葉植物を設置する。

観葉植物 (サンスベリア、ガジュマル、ドラセナ、フィカス、パキラ)

資材 (鉢、かご、パークチップ、水苔)

飼育用品の購入

飼育セット、水槽、ソイル、水温計、昆虫ゼリー、産卵床、GEXメダカ元気やさしいネットやわらか

畑のお片付け及びすぐに栽培ができるように準備する。

きれいな花を育てる培養土、観葉・多肉の土、鉢底石、

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

◎“自然について”考える

・例年子どもたちが戸外活動中に自然を持って帰ってくる。雨の日でも園外に出なくても自然と触れ合うことができる用に子どもたち自身が何をやりたいかについての子ども会議を実施する。

◎うめしごと（毎日確認し、毎日体験する）

公園で自然を探る中で、木の実や実について興味を子どもたちが示した。実を調べていく中で梅が漬物になったりジュースになったりすることを知る。園にある、絵本“はじめてのうめしごと”を活用して、梅ジュースを作る。（2025.6初旬）

◎ “野菜”“昆虫”“花”グループの活動

・興味・栽培活動の導入:戸外で見る畑や花、虫など見て、子どもたちが関わりたい内容を決めていく。身近な自然に興味を持つきっかけとして栽培活動を実施。

実体験を通して命を育む楽しさや難しさを学ぶ過程が記録し、保護者に伝えていく。

◎お花の栽培と活用

※熱中症指数計を見ながらの活動のため戸外活動ができない状況あり。

子どもたちの提案から、栽培した花を装飾や作品作りに活用する活動へ発展しました。

育てたいお花は図鑑や絵本をみて、子どもたちが主体的に決定。

◎野菜の栽培

※熱中症指数計を見ながらの活動のため戸外活動ができない状況あり。

話し合いで育てる野菜を決め、JAへ種や苗の買い物に行き、土作りから畑作りを実施、手袋を付けて、草を抜いたり、土を掘り起こしたりしながら、感触や温度、におい等を感じる。

5月の連休開けに野菜の種植えを実施する。

水やりができる時は畑にて水やりを実施。枝豆は、生長をもっとまじかで見える為、ベランダにて栽培する。

◎ 昆虫の観察と飼育

季節ごとの虫たちに興味を持ち、道具を使った観察や飼育を通して生命への理解を深める。

自分たちで育てて、自分たちで考えていく。マイクロスコープ等のICT機器を活用して、より深く探求していく。

◎園のシンボルツリー、園庭ガーデンの作成。

今までの体験をもとに、保育園内でも同様な体験ができるようにしていく。子どもたちの声を聞いて、どんな園庭を作るのかを子ども会議で話し合う。保護者にもアンケート等を通して、参加してもらいみんなで、主体的に関われるようにする。

◎より自然を探求できるスペースを作るため、研究室・図書館をつくる。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

◎“自然について”考える

- ・子どもと自然について子ども会議を実施する。

「おはなそだてたい!」「やさいたべたい」「むしそだてたい」などの声があったので、幼児を3つのグループに分かれて自然の活動を実施していく。(野菜、花、昆虫)

◎うめしごと(毎日確認し、毎日体験する)

きっかけ：春、散歩先で草花探しがブームになり、中でも特に豆や実に興味を持った子どもたち。拾ったものを持ち帰り、「これはなんの実だろう」と調べていく中で、梅の実であるという事が分かる。昨年梅ジュースを作った経験から「梅ジュース今年も作りたい」という声が上がリ、園にある、絵本“はじめてのうめしごと”を活用して、梅ジュースを作る。(2025.6初旬)

3~5歳で子ども会議を実施。「こおり砂糖ってなに?」「他の物でもできるの?」「氷砂糖」「はちみつ」「三温糖と黒糖」の3パターンで実施する。

- ・7/5夏祭りで梅ジュースの試飲コーナーを設置、保護者も自由に飲めるようにした。

→夏祭り保護者アンケートにて感想をもらう。

3歳児：すみれぐみ

絵本を通して去年の経験を思い出し、五感を使って梅に親しむ姿が見られました。去年の経験を振り返った後、梅の観察や匂い嗅ぎを行いました。竹串を使ってヘタ取りに挑戦し、水洗いした梅をペーパータオルで丁寧に拭きました。梅5個と氷砂糖お玉2杯を交互に瓶へ入れました。氷砂糖が溶けていく日々の変化を観察することを楽しみにしています。

4歳児：ひまわりぐみ

「職人」のような手際良さを見せ、活動後の楽しみも含めて意欲的に取り組みました。

調理師から作り方の説明をしっかり聞き、真剣に食育活動に取り組みました。

•工程: 水洗いや竹串を使ったヘタ取りを行いました。ヘタ取りでは、職人のような手慣れた手つきを見せる子もいました。梅と一緒に、氷砂糖やはちみつを瓶に入れました。完成したジュースは、夏祭りの日に試飲会を行う。

5歳児：ゆりぐみ

散歩中から梅に興味を持ち、年長児らしく異なる種類の砂糖を使う工夫を楽しみました。

- ・散歩先で梅を拾ったり匂いを嗅いだりして、以前から活動を心待ちにしていました。
- ・竹串でのヘタ取り、水洗い、ペーパータオルでの拭き上げを自分たちで行いました。三温糖と黒糖をミックスして使用し、梅と交互に瓶へ詰めました。

◎ “野菜”“昆虫”“花”グループの活動

・興味・栽培活動の導入:自然物集めの遊びの中で、身近なところに様々な自然物があることを発見。公園ごとにどんな種類の花や実があるのか、調べていく中で、その名前に関心を持ったり、実は「埋めてみたらどうなるのかな」という疑問に繋がっていく。園舎前の畑を使えることを子どもたちに伝えると「育ててみたい」と声が多数上がり、クラス毎の子ども会議にて栽培活動について何を育てたいのか話し合う。

◎お花の栽培と活用

※熱中症指数計を見ながらの活動のため戸外活動ができない状況あり。

子どもたちの提案から、栽培した花を装飾や作品作りに活用する活動へ発展しました。

育てたいお花は図鑑や絵本をみて、子どもたちが主体的に決定した。

○朝顔：3歳児クラスが前年に採れた朝顔の種（500粒以上）を植え、開花や種取りを楽しみました。

ドライフラワーアレンジメント作り:育てたセンニチコウをドライフラワーにして、アレンジメントを作る。活動が楽しかった子どもたちは、手作りのドライフラワーや造花を使い、自分たちで制作したペットボトルの花瓶などに飾り付けを楽しみました。

○リース作り：ドライフラワーにした千日紅やカラ松等を使い、リースを作る。リースは交流のある近隣の施設、オーナーにプレゼントした。

+A33

◎野菜の栽培

※熱中症指数計を見ながらの活動のため戸外活動ができない状況あり。

話し合いで育てる野菜を決め、JAへ種や苗の買い物に行き、土作りから畑作りを実施、手袋を付けて、

雑草を抜いたり、土を掘り起こしたりしながら、感触や温度、におい等を感じる。

5月の連休明けに野菜の種植えを実施する。水やりができる時は畑にて水やりを実施。枝豆は、生長をもっとまじかで見ると、ベランダにて栽培する。

・ひまわり組の活動: トウモロコシとハツカダイコンを栽培しました。トウモロコシは背丈を記録し、収穫して皮むきを体験しました。ハツカダイコンは大量に収穫でき、給食室へ届けました。

・ゆり組の活動: ニンジンと枝豆を栽培しました。暑さの影響で収穫がうまくいきませんでした。失敗の原因を話し合う「作戦会議」を行い、次への学びへと繋げました。

◎昆虫の観察と飼育

季節ごとの虫たちに興味を持ち、道具を使った観察や飼育を通して生命への理解を深める。

・マイクロスコープ観察: 畑で見つけたバッタの顔や心臓が動く様子を拡大して観察しました。土の中の様子もマイクロスコープで観察し、土の中の世界を体験しました。

・てんとう虫の幼虫観察: 公園で見つけた幼虫の好む葉を調べ、成長過程を熱心に観察しました。

・クワガタの飼育: 「カミくん」と名付けてお世話をしました。死んでしまった際にはお墓を作って花を添えるなど、命との別れも経験しました。

・どんぐり虫研究: 穴の開いたどんぐりから「本当に虫がいるのか」を毎日熱心に観察・調査しました。

・メダカの飼育をはじ+A38め、卵や稚魚をマイクロスコープで見て、観察。雄と雌の違いなどを発見しました。

◎園のシンボルツリー、園庭ガーデンの作成。

戸外での体験を保育園でもできるようにしていく。子どもたちの声を聞いて、どんな園庭を作るのかを子ども会議で話し合う。保護者にもアンケート等を通して、参加してもらいみんなで、主体的に関われるようにする。

◎より自然を探求できるスペースを作るため、研究室・図書館をつくる。

どんぐり探しがブームになる中で、「種類が違うね」「〇〇公園にはこのどんぐりが多いね」「どんぐりを転がしたら速さは違うのかな」等と、様々な疑問や発見の声が聞かれたので、より調べたり探求が出来るようどんぐり研究所を作る。活動もひと段落した所で、どんぐりの他にも戸外活動で、様々なことに興味を持ち、探求活動が進んでいるため、図書館を作る。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

・これまでの戸外活動では、ただ見つけた自然を拾って持ち帰って満足する状況だったが、環境を設定し、子どもたちが自然について調べられる環境をつくることで、自然についての理解を探究する姿が見られるようになってきた。

・子どもたちが自然について詳しくなり、生活を進めていく中で、自然が保育室の中に日常として根付いていくことで子どもが主体性を持つようになる。自ら探求心を更に深める事が出来、〇〇したい！つぎはこれしたい！等の積極的に生活を作り出すことができるようになってきていた。

・子どもたちが興味を持つグループを選び、主体的に活動していく中で、子どもたちが会話を通して、探求心を深めていきながら、保育を更に楽しんでいる姿が見られた。“おばけプロジェクト”や“クリスマス会”等の企画も個々に力を発揮して、生活をより豊かにする事が出来た。

・すくわくでの活動の様子を家庭と一緒に進めていく事で、保育での活動の意図が分かり、家庭での会話が生まれている。アンケートでも「保育園でやった！」との会話が生まれてうれしいとの回答があった。

△シンボルツリーをどんな形で植えるのかを造園会社と子どもたちを交えて相談。

保護者にも相談の様子が子ども経由で伝わることで興味を持っていただいたものの、園の活動にうまくかわりの機会を設定して巻き込むことができなかつたので、次年度以降は保護者を巻き込む施策にしていきたい

・すくわくプログラムの中で子ども会議を実施し、主体的に活動の内容を子どもたち自身で決めていくことで、子どもたち自身の考えや行動の積極性が目に見えて変化していた。